



河東 ふれあい



140号
発行元
河東地区コミュニティ運営協議会
広報委員会
TEL:35-1837 FAX:35-1864
http://katou-cc.com/



新年のご挨拶



運営協議会会長
花田 鷹人

新年、明けましておめでとうございます。
河東地区の皆様におかれましては、健やかな正月をお迎えのことと存じます。日頃よりコミュニティ運営に温かいご支援とご協力を賜っていますことに感謝し、心よりお礼申し上げます。
さて、昨年はコロナの位置づけが2類相当から5類へ移行されたことにより、コミュニティ活動も活発に行われるようになりました。
特に、“河東みんなのまつり”では飲食を提供したこともあり、会場を通り抜けるのに苦労する程の賑わいでした。これも地域の皆様のおかげであり改めてお礼申し上げます。
また、本年1月下旬には河東地区コミュニティ運営協議会発足20年の記念行事が行われます。この節目の年をきっかけとして20年を振り返り、今後のコミュニティ活動の在り方を再考する時期ではないかと個人的には考えます。
最後になりましたが、本年もこれまで同様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝ご多幸を願い新年の挨拶とします。
令和6年 元旦

第2回運営委員会 11月26日(日)

今回の運営委員会では、運営協議会の上半期実績報告と説明がありました。
報告内容は、①事業活動進捗状況 ②収益事業及び非収益事業の予算執行状況 ③コミュニティ・センター施設利用等実績の3項目でした。
全体的にコロナも落ち着き、センター施設利用も範囲が広がり、利用者数がコロナ前に戻りつつあると感じられました。

また上半期を終えて、各部会からの報告には、運営委員の皆様方も熱心に耳を傾け充実した委員会となりました。

(副会長 西田光生)



コミュニティ運営協議会役員・自治会長合同研修会

11月5日(日)、東郷小学校で行われた研修会に河東地区から11人の協議会役員・自治会長が参加しました。
午前「地域の課題解決プロジェクト」というテーマで各地域の自治会長がそれぞれの抱える課題について情報を共有し、課題解決に向け地区を越えて議論しました。
午後は「10年後のコミュニティを考える」というテーマで、10年後私たちがどうありたいか、どのような宗像市にしたいか等の理想像を語り合い、有意義な一日となりました。(市コミュニティ協働推進課)



河東地区歴史研究会視察研修

11月21日(火)、会員15人で大友館跡の大友宗麟交流館(大分県)に行ってきました。
大友家は日本で最初にキリスト教を保護し、布教を許し、南蛮貿易で栄えた時は九州全域を治める大大名でした。しかし耳川(現宮崎県)の戦いで島津軍に敗れ、館も島津軍に焼かれ焼失してしまいました。その後埋め立てられた土地を当時描かれた絵図面を参照し発掘調査した結果、大友館に間違いがないということがわかり、発掘が進み当時の遺物が多く出土しています。

帰りに杵築城を見学しました。九州の小京都といわれる街です。海の玄関として、海沿いの断崖絶壁に建てられた本当に素晴らしい城でした。(河東地区歴史研究会会長 花田敏彦)



元気いっぱい!! ジャガイモほり 11月29日(水)

かとコミ農園では、かとう保育園・かとう西保育園の園児23人がジャガイモ掘りをしました。「出島」と「アンデスレッド」という品種を掘りました。「アンデスレッド」はその名の通り表皮が赤い為、園児たちは当初ジャガイモだとは思っていなかったようです。「なんで赤いの?」「イモはどうして土から育つの?」など

次々と質問が飛び出し、農園実行委員の方々が丁寧に説明していました。
初冬の曇天模様の中でしたが園児たちは元気いっぱい、終始大喜びで地域の方との交流も深まりました。収穫したジャガイモ103kgは、両保育園で給食として園児たちに振る舞われるそうです。

(かとコミ農園実行委員 花田泰彦)



須恵区餅つき大会 4年ぶりに開催

12月10日(日)、須恵公民館広場で「だいがら」や「杵臼」を使って餅つき大会を開催しました。きな粉餅やぜんざいの振る舞いに子どもからお年寄りまで楽しんでいただきました。(須恵区長 光尾三郎)



だいがらによる餅つき



門松飾り

須恵区の和田さんのご協力によりコミセン玄関前に飾っています。

